

	H26 計画	H26 実施状況	H27 方向性	H27 実施状況	H28 方向性
(1) 住民主体の地区ごとの健康づくりの推進					
●地区ごとの健康づくり活動の推進					
・自治会づくりの推進	・各自治会で計画周知 ・モデル自治会の取り組み ・自治会担当職員との会議	・今年度は地区担当保健師がそれぞれの自治会で、自主的な健康づくりの取り組みを少しずつ始める計画であったが、計画通りに地域に入ることができなかった。保健企画研修を通して、矢上地区をモデルに活動を始めたので、その取り組みを他地区に波及させていきたい。	・モデル地区を参考に、各地域数か所で地域活動を始める。	・布施地区、矢上地区をモデル地区に保健師がチームとなって自主的な健康づくりの取り組みを少しずつ始めた。布施地区は銭宝自治会との連携を中心に、矢上地区は石見中央自治会をモデル自治会として、集落単位で健康づくりに取り組んだ。この取り組みについては地域部会で積極的な意見をもらった。	・モデル地区活動を深めていく。
	・集落保健衛生委員の活動内容・体制の見直しを検討する	・集落保健衛生委員対象の活動アンケートを実施。取り組みやすい受診勧奨を実施し、各種健診受診者を増加させるよう、今後取り組んでいきたい。	・集落や自治会の中で、保健衛生委員を中心とし健康づくりが実施できるよう体制を整える。	・昨年のアンケート結果より、保健衛生委員が受診勧奨しやすいよう案内文を工夫したり、受診勧奨の工夫点等の活動紹介を行った。身近な方からの勧奨は受診につながりやすいので、継続して受診勧奨をしてもらうよう伝えていく。	・受診勧奨を中心に活動してもらい、そのためには継続して効果的な受診勧奨について検討する。
・生活に身近な場での保健事業の推進	・モデル自治会を中心に、自主的な健康づくりにとりかかると。	・矢上地区をモデルとして、他地区に波及させていく。	・モデル自治会を中心に、自主的な健康づくりにとりかかると。	・モデル自治会の活動が中心となり、自治会等からの出前講座など健康づくりに関する要望はなかった。	・出前講座等の企画等実施してもらえよう情報提供していく。 ・地域部会で検討しながら取り組んでいく。
(4) 多様な実施主体における効果的な連携と体制づくりの推進					
●地域、学校、職域と連携した町民運動の推進					
・他分野との連携強化と体制づくりの推進					
健康長寿おおなん推進会議	・自分の所属している部署でも、できることから取り組み始める(活動の拡大を図る)	部会としての活動は委員の協力を得て計画的に実施できたが、それぞれの部署での取り組みは、一部の部署にとどまり、拡大を図るところまで実施できなかった。	・自分の所属している部署でも、取り組みができるよう支援する。	H26年度までは、ライフサイクルごと(子ども・働き盛り・介護予防)で部会制をしていたが、介護予防部会の取り組みが、福祉課の介護予防計画に基づく取り組みと重なるために棲み分けが難しく、部会員としても取り組みにくさを感じたため、H27年度から地域部会に再編成し、地域の皆さんとともに健康づくりを展開していく方法について検討することとした。	・部会活動の取り組みを参考に、自分の所属部署でも何か一つ健康づくりに取り組む。
職域部会	・職域部会のあり方について検討	・わくわく健康フェア開催に向けて、いくつかの事業所の健康管理者に集まっていた打ち合わせを開催した。この会議を重ね、職域部会に移行させていきたい。また、健康情報提供事業所を募り、事業所名簿を作成中。この名簿を基に健康情報やイベント情報を提供することで、意識啓発をしていきたい。	・職域部会の立ち上げに向け、体制づくりをする。	健康フェア実行委員会を兼ねた働き盛り部会を4回開催した。今年度は、これを母体に職域部会の立ち上げに向けて進めていきたかったが、委員さんの代わられた年でもあり、各事業所の健康管理の取り組みについて情報交換を中心に行った。	・職域部会の立ち上げは見送り、各事業所での取り組みが充実するように連携を図る。
母子保健検討会(歯科保健検討会)	・校長会への参加	・食・生活習慣・歯科について、保育所、学校、他関係機関と今年度の取り組みの共有と次年度に向けた効果的な連携について検討を行った。 ・校長会で健康増進計画の概要について説明を行い、連携した取り組みを依頼した。	・引き続き開催	・食・生活習慣・歯科について、保育所、学校、他関係機関と今年度の取り組みの共有と次年度に向けた効果的な連携について2/24に開催し検討予定。 ・担当者同士の情報共有、学習の場づくりとして、離乳食をテーマに食育研修会を行った。	・今年度の検討をふまえ、内容を検討し継続して開催する。
自死対策評価委員会	・内容の充実	・自死対策について意識してもらうよう今年度の取り組みや自死の状況について共有と来年度の取り組みについて検討を行った。今後も内容を充実していきたい。	・コア会議を開催し内容の充実を図る。	・実務者会議(コア会議)を開催し事例検討を通じてより実態に沿った課題の整理や、今後の方向性について検討した。	・今後も継続して開催し、関係機関と連携した取り組みとなるよう働きかけていく。
●保健と医療、介護、福祉と連携した取り組みの推進					
・包括的ケア体制づくりの推進	・地域包括ケア体制づくりに向けての検討を始める	・公立邑智病院と連絡会を開催。また、研修会に随時参加しているが、具体的な進め方の検討はこれからという状態。	・地域包括ケア体制づくりに向けての検討を始める	・公立邑智病院医師・地域連携室、県央保健所、社会福祉協議会、邑南町役場(福祉課・保健課)で地域支えあい推進チームを立ち上げ、地域の地域包括ケア構築に向け、実態把握・住民への啓発・施策の検討に取り組んでいる。	・地域支えあい推進チームの取り組みをベースに、H29年度に向け体制づくりを行う。
・介護予防の推進	・関係機関連絡調整会議の開催	・関係機関連絡調整会議は開催されたが、介護予防について充分検討できる時間がなかった。	・関係機関連絡調整会議の開催	・地域支えあい推進チームの中で、地域に密着した取り組みを実施している、社協・福祉課・保健課メンバーで、地域部会を立ち上げ、現在実施しているサービス把握・どのような取組が必要かを検討している。	・地域の実情に応じ、身近な場で集う場づくり、集う場や生活を支援するボランティアを一本化する。 ・交通体制・生活に密着したサービスを検討する。

健康増進計画 年次計【子どもの健康づくり】

	H26 計画	H26 実施状況	H27 方向性	H27 実施状況	H28 方向性
(2) 生涯を通じた健康づくりの推進					
① 将来を担う子どもや若者の健康づくりの推進					
● 規則正しい生活習慣づくりの推進					
・規則正しい生活習慣の推進	・実態把握(アンケート)・分析 ・校長会	・4月に保育所入所している乳幼児の保護者へ食と生活習慣の意識調査を行った。 結果については、保育所長会、栄養指導連絡会、子ども部会、母子保健検討会 で共有し、家庭への啓発を検討した。 ・保育所と連携し、生活習慣をテーマにした教室を開催し保護者への啓発を行った。	・今後も関係機関と連携し継続した取り組み ・学校保健委員会への参加	・食と生活習慣の意識調査の結果を踏まえ、保育所と連携して保護者へ伝える場を作り、啓発を行った。 ・学校保健委員会を開催された学校へ参画し、子どもの生活について保護者や関係機関で話し合う機会をもったが、全校で実施することは難しい状況。	・今後も関係機関と連携し継続した取り組み ・学校保健委員会への参加
● 規則正しい食習慣づくりの推進					
・家庭への啓発	・実態把握(アンケート)・分析 ・校長会	・4月に保育所入所している乳幼児の保護者へ食と生活習慣の意識調査を行った。 結果については、保育所長会、栄養指導連絡会、子ども部会、母子保健検討会 で共有し、家庭への啓発を検討した。今後、「子育て応援レシピ」をツールに保育所、学校と連携して啓発・取り組みを行っていく。 ・保育所と連携し、食についての教室で保護者へ啓発を行った。 ・新たに学校保健委員会を開催された学校があり、子どもの食や生活について保護者と関係機関で話し合う機会になった。	・今後も関係機関と連携し継続した取り組み ・学校保健委員会への参加	・保育所、学校と連携し、食に関する教室やクッキングを通して保護者へ情報提供・啓発を行った。 ・食育研修会を開催し、保育所スタッフ(保育士・調理師・栄養士)・保健課スタッフで、離乳食について情報共有し、今後連携して家庭への啓発を行っていくための目線合わせを行った。 ・子育て応援レシピを保育所に配布し、教室等で保護者にPRを行った。レシピの追加が十分できなかったため、今後追加しながら活用をすすめていきたい。 ・学校保健委員会へ参加した学校では保護者と話し合う機会をもったが、今後も継続して関わってきたい。	・関係機関と連携した取り組みを継続。 ・食育研修会の開催
・保育所・学校等関係機関との連携	・実態把握(アンケート)・分析 ・校長会				
・食育推進計画の推進		・事務局会議で担当課で情報交換を行った。		・事務局会議で担当課で情報交換を行い、食育推進委員会に出席し食育の推進について検討した。	・第3次計画(H29年度～)策定にむけた見直し等連携を図る。
● 身体を動かすのが好きな子どもを増やす					
・身体を動かすことの楽しさを体験できる場を増やす。	・実態把握(アンケート)・分析 ・元気体操(キッズバージョン)	・オオナンショウと一緒に踊る体操を制作し、イベントで披露した。	・出前講座	・町としては実施しなかったが、保育所によっては健康運動指導士を招き、定期的に教室を開催している。	・取り組みの仕方について検討し、各施設と連携して実施。
● こころの健康づくりの推進					
・子どものこころを育てる取り組みの推進	・社協と連携し子どもへ啓発 ↓ ・子育て関係者の研修会を対象を広げて継続実施 ・アンケート調査については、大田圏域で分析、次世代育成計画の見直しに合わせて方向性を検討	・子育て支援関係者を対象に「子どものこころを考える会」を開催し、親子の愛着形成や自尊感情を育むことの重要性を共通理解する機会を持った。来年度は、邑南町の現状課題について関係者で共有し、子育て家庭への関わりを検討していきたい。	・「子どものこころを考える会」の充実	・子育て支援、各保育所・学校関係者を対象に、研修会を開催予定。 ・虐待予防の観点から、子どもや保護者への関わり方について学び、子どもの自尊感情を育む取り組みの必要性について共通理解する。	・今後も関係機関と連携し、継続して実施する。
・保護者への支援	・保護者を支える関係者の研修会を対象を広げて継続実施し、横のつながりを強化する	・関係者の横のつながりを強化することから取り組み始めた。今後は、それぞれの機関での保護者支援と、連携した啓発を行っていく。	・保護者を対象に講演会(学習会)を実施	・関係者の共通理解を深める取り組みに留まった。	・保護者への関わりかたについて検討する。
・地域で情報把握ができる体制の整備	・特別支援連携協議会の周知 ・要保護児童対策協議会の周知	・連携協議会の体制については周知が図られており、関係機関と連携して取り組んでいる。今後は、予防的な視点で早期からの関わりを地域とともに行っていくことが必要。	・特別支援連携協議会、要保護児童対策協議会の関係機関の連携強化	・連携協議会の体制については周知が図られており、関係機関と連携して取り組んでいる。今後は、予防的な視点で早期からの関わりを地域とともに行っていくことが必要。	・特別支援連携協議会、要保護児童対策協議会の関係機関の連携強化

●最初の1本を吸わせない取り組みの推進					
•子どもへの禁煙教育	<ul style="list-style-type: none"> 大田圏域健康長寿おおなん推進会議の禁煙教育(邑南町中学校が実施年)、たばこキャンペーン はばたき講座は、内容を検討する 町教研で本の活用について相談 	<ul style="list-style-type: none"> 高原小学校の参観日に合わせて「未成年者に最初の1本を吸わせない」キャンペーンを保護者対象に実施。 高校3年生を対象にはばたき講座を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> キャンペーンの継続実施 はばたき講座については、内容を要検討 	<ul style="list-style-type: none"> 市木小学校参観日で公開授業、矢上小学校では出前講座を学校を連携して実施。 日貴小学校、阿須那小学校の行事に合わせて、健康長寿おおなん推進会議子ども部会でたばこキャンペーンを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> キャンペーン、出前講座の継続実施
•分煙対策	<ul style="list-style-type: none"> 自治会と協力して、自治会館等の分煙対策を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内禁煙実施に向けて校長会で圏域内の状況を報告し検討を依頼した。 自治会への働きかけはできなかった。今後、地区活動の中で推進していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と連携 自治会への分煙啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会等関係機関と連携し、長年の懸案事項であった「敷地内禁煙」が平成28年4月1日より全校で完全実施されることとなった。 自治会への働きかけはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内禁煙について全町へ周知 自治会への分煙啓発
●子どもがお酒を飲まない、大人が飲ませない取り組みの推進					
•子どもへの飲酒防止の教育	<ul style="list-style-type: none"> 自治会と協力して、子どもの飲酒防止対策を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 高校3年生を対象にはばたき講座を実施。 自治会への働きかけはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> はばたき講座については内容を要検討 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は実施しなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会など関係者と取り組みの必要性について検討する。
•PTAへの知識の普及		<ul style="list-style-type: none"> アルコールに関しては啓発の機会がなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度は実施しなかった。今年度は啓発の機会がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会など関係者と取り組みの必要性について検討する。
●妊娠期から継続したむし歯ゼロ・歯周病予防をめざす取り組みの推進					
•正しい知識の普及	<ul style="list-style-type: none"> はばたき講座については要検討 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、小学校、児童クラブ、子育て支援センターと連携し、例年どおり子どもや保護者を対象に教室を続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、小学校、中学校、子育て支援センター、児童クラブと連携し、歯科教室を行った。子育て支援センターでは定期的に相談を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 各機関と連携しながら教室の継続実施。
•フッ化物の応用		<ul style="list-style-type: none"> 例年どおり継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診や、歯科教室、学校保健便り等を通して、歯科予防と併せフッ素の効果について情報提供を行った。フッ素塗布は、むし歯予防だけでなく、幼児健診後に医療機関に相談できる場としてもとらえ受診勧奨を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施。
•歯科検診と教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> 例年どおり継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診での歯科検診、フッ素塗布に併せて歯科検診(医療機関委託)をセットし実施。歯科教室の場で歯科予防について、医療機関、保育所、小学校、中学校、子育て支援センター、児童クラブ等と連携しながら実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施。
•保育所・学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保育士研修会(歯科あるいは食) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、小学校、児童クラブ、子育て支援センターと連携し、子どもや保護者を対象に教室を続実施。 依頼のあった保育園に対して、保護者と一緒に職員も対象に教室を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士研修会の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 依頼のあった保育所へ、保護者と保育所職員を対象にして教室や保育所参観日に併せて相談を行い情報提供を行った。 保育所職員を対象に、食育研修会の中で、情報提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、学校との連携を取りながら継続実施。

健康増進計画 年次計画

【青壮年期の健康づくり】

	H26 計画	H26 実施状況	H27 方向性	H27 実施状況	H28 方向性
(2)生涯を通じた健康づくりの推進					
②働き盛りの青壮年期の健康づくりの推進					
●生活習慣病予防の食生活の推進					
・食の正しい知識の普及	・元気館トレーニング利用者への栄養に関する情報提供・啓発	・偶数月の第1水曜日に実施。元気館利用者に運動だけでなく食の面からも健康を考えてもらうきっかけにしたかったが、日中の来所者は高齢者が多いこと、教室が終了するとすぐ帰られるため、相談に結びつきにくかったが、一般の希望者が毎回2~3人あり、個別にゆっくり相談できるため好評であった。50代女性を対象にした健康と女子力アップ教室、40代女性を対象にした健康ダイエット教室、退職者健康セミナー等、年代や目的をしばった各種教室を開催。	・栄養相談日の継続	・昨年度に続き、食事や栄養に関する身近な相談の場として、毎月1回栄養相談の日を設けた。毎回2~3人の相談があり、主に糖尿病、糖尿病性腎症などの病態の食事や介護予防の食事についての相談で利用していただいた。	・栄養相談日の継続
・若い世代への啓発	・各種教室の継続実施		・各種教室における情報提供の継続実施	・女子力アップ教室、健康セミナー等、年代や目的をしばった各種教室で情報提供・啓発を行った。	・職場健診での啓発
●自分にあった運動の実践と継続					
・運動の正しい知識の普及	・自治会の集まりに出前講座(H25~H26にかけて随時実施)	・各種団体からの出前講座に対応。地区活動の展開が十分にできなかったため、自治会の集まりでの出前講座は少なかった。	・モデル地区、モデル事業所の取り組みを他に波及。	・矢上地区の中央自治会をモデル自治会としたが、その他の地区や地域には波及できていない。 ・さつきの園をモデル事業所とし、働き盛り部会や県での活動紹介を実施。取り組みの周知は図れたが、他の事業所への波及には至っていない。	・各事業所に担当職員を配置し、課題に向けて取り組みを行う。
・運動が実践しやすい環境づくり	・ウォーキングサークル立ち上げ(自主的に歩く方の仲間づくり)	・ウォーキングの日参加者については、PTA等に働きかけたため参加者の年代は若い方の割合が増えた。日頃のウォーキング状況や思いを確認するためのアンケート調査を実施した。	・ウォーキングサークルの立ち上げ(自主的に歩く方の仲間づくり)。	・働き盛り世代のウォーキングの日への参加に向けた啓発は行っておらず、若い方の参加は少なかった。事業所へ対しても協力依頼を行った、チャレンジ事業についても参加はほとんどなかった。働き盛り世代の中でも、各年代・性別により運動が実践しやすい環境は異なるが、それに即した介入が行えていない。	・元気館トレーニング室の周知 ・自宅でできる運動のPR
●こころの健康づくりの推進					
・こころの健康づくりの意識啓発	・公民館との連携 ・研修会の実施(内容・対象者検討)	・公民館でも自死予防キャンペーンを行い多数の方へ啓発を行った。	・出前講座 ・特定健診を活用した情報提供。	・働き盛り部会の委員さんの所属事業所で自死予防キャンペーンを実施した。 ・特定健診では情動検査(自己チェック)を実施し、必要な方へ医療機関や専門相談の情報提供を行った。	・引き続きキャンペーンを実施し情報提供を行う。できれば出前講座へつなげる。
・地域で情報把握ができる体制の整備	・相談支援事業所との連絡会を増やす	・相談支援事業所との連絡会を開催したが、回数を増やすことはできなかった。今後内容も充実させていきたい。	・相談支援事業所との連絡会の充実 ・研修会の充実	・関係機関と自死対策について連携を深めつつ、事業の評価検討を行う自死対策評価委員会を2月に開催予定。町の現状と課題について共通理解し、一次予防につなげていくために職域での取り組みを検討する予定。	・働き盛り部会の中で、所属の職場で気にかかる方がおられた場合は、必要に応じて個別支援を行う。 ・引き続き評価委員会を開催。
・職域との連携	・職域部会のあり方について検討	・職域へ「こころの健康相談」を身近な相談の場として啓発した。今後は職域の状況を把握したり、啓発を継続して行っていきたい。	・出前講座。 ・情報提供の継続。	・事業所健診でこころの健康に関する自己チェックと町のこころの相談日をカードにして周知した。事業所によっては、相談したくても職場を抜けられないという意見もあり、相談の実施方法については検討が必要。	・職域の方が利用しやすい相談を実施。
●喫煙者への禁煙支援					
・正しい知識の普及・啓発	・職域出前講座の実施		・職域出前講座の実施		
・相談・治療が受けられる体制づくり	・職域胸部CT検診の検討	・12月に実施した胸部CT検診の際、職域からも喫煙者に受診していただいた。併せて、喫煙に対する思いを聞き取ったり、希望者には禁煙外来の紹介を行った。職場検診に併せた普及啓発に取り組み、喫煙を健康上問題に思っている方については害や禁煙外来について説明した。	・胸部CT検診に併せた啓発と情報提供。 ・職場健診、わくわく健康フェアを活用した情報提供。	・がん予防キャンペーンに併せ、2事業所においてタバコに関する出前講座を実施した。 ・胸部CT検診に併せて、たばこの害についての説明・禁煙外来の紹介等を行っているが、受診者は健康を気にしつつ、禁煙の意思はない方が多く、禁煙に結びつきにくい状況である。	・若く新規の方が、胸部CT検査に結びつく働きかけ。 ・禁煙については、違う形での意識啓発を考える。
・禁煙外来の情報提供	・職域胸部CT検診に併せた情報提供				

●分煙対策の推進					
●地域や職域との連携	●自治会へ分煙啓発	●地区担当保健師による各自治会への働きかけが充分でなかった。今後、地区活動の中で推進していきたい。	●自治会への分煙啓発	●各自治会館や集会所には、保健課が配布した禁煙のポスターが貼ってあるが、施設内禁煙がされているかは未把握。 ●職場健診に併せ、パンフレットを使ってタバコの害・禁煙の啓発を行った。	●モデル自治会での分煙の取り組み。 ●職域連携の中で、少しずつ分煙に取り組む。
●適正飲酒への支援					
●適正飲酒の情報提供	●ハイリスク者への個別フォロー(地区担当保健師)	●健診後の報告会等、個別指導に併せ必要な方へ情報提供を行った。	●ハイリスク者への個別フォロー	●職場健診で前回の健診結果を振り返り適正飲酒についての情報提供を行った。 ●特定健診後の報告会等、個別指導に併せ必要な方へ情報提供を行った。	●引き続き継続実施。
●歯周病で歯を失わない取り組みの推進					
●正しい知識の普及	●生活習慣病予防教室の中での健康教育の継続	●特定保健指導、糖尿病教室等各種健康づくり教室の際には、歯科についてミニ健康講座を組み込み、歯科と生活習慣病の関係について啓発するとともに、歯みがきやお口の体操等の実技指導を行った。	●生活習慣病予防教室の中での健康教育の継続	●糖尿病予防教室や健康セミナー等の教室の際に、ミニ講座として歯科予防について生活習慣病と歯科の関係について情報提供を行った。お口の健康を守るための方法として歯磨き方法(磨き方や補助道具の使用)やお口の体操の実技指導、定期的な歯科受診の必要性について啓発を行った。	●生活習慣病予防教室の中での健康教育の継続
●歯科検診の推進	●歯科健診やお口の調査結果をわかりやすくみなさんに情報提供する ●事業所検診に歯科検査が加わる予定(県事業)→県の動きを見ながら、事業所へ働きかけ	●特定健診に併せて歯科相談を全員の方に実施。健診結果報告会で、お口の状況をわかりやすく返すとともに(結果返しの様式を工夫)、治療が必要な方に対して歯科受診お勧めカードを発行	●特定健診に併せた歯科相談の継続。歯科受診お勧めカードにより、治療が必要な方へ受診勧奨	●特定健診に併せて歯科相談を実施。健診結果報告会で、お口の状況をわかりやすく返すとともに、治療が必要な方に対して歯科受診お勧めカードを発行。特定健診や報告会をきっかけとして、定期的に歯科受診にむすびつくような働きかけが今後も必要。	●特定健診に併せた歯科相談の継続。歯科受診お勧めカードにより、治療が必要な方へ受診勧奨
●職域との連携	●出前講座の継続	●福祉施設での出前講座の際、職員さんにも話を聞いていただいたが、職域からの出前講座要請はなかった。	●出前講座	●地域や福祉施設出前講座の際、職員さんにも話を聞いていただいたが、職域からの出前講座要請はなかった。	●職域の求めている項目に関連付けて、健康づくりの中に歯科保健も取り組んでいく。

健康増進計画 年次計画【介護予防】

	H26 計画	H26 実施状況	H27 方向性	H27 実施状況	H28 方向性
(2)生涯を通じた健康づくりの推進					
③高齢者の健康づくり、介護予防、生きがいづくり、社会活動への支援					
●自分の健康状態にあった食生活の推進					
・バランスのよい食生活と減塩の啓発	・実態調査の分析	・実態調査を分析しその結果を運動教室で報告した。またロコモ予防も意識し減塩についてだけでなく、タンパク質の摂り方も併せて啓発した。	・バランスのよい食生活と減塩を中心に啓発を実施	・認知症予防教室、老人クラブなどに出席講座で出かけ、介護予防のためのバランスの良い食生活(タンパク質摂取、減塩等)の情報提供と啓発を行った。	・出席講座による情報提供と啓発の継続 特にサルコペニア(ロコモ)予防の食生活について
●自分の健康状態にあった運動による介護予防の推進					
・運動の正しい知識の普及	・おおなん元気体操考案(いろいろな場で普及)	・邑南町町の歌に合わせておおなん元気体操を検討。運動教室やケーブルテレビで普及している。また、運動の必要性を楽しくわかりやすく知ってもらうようにクイズラリーや寸劇による啓発も行い、自分の生活を振り返ってもらう機会とした。	・継続して楽しくわかりやすい意識啓発の実施	・ケーブルテレビを活用し毎月家で取り組みやすい運動を紹介した。地域においては集落での出席講座、地域運動教室への支援を中心に介護予防に効果的な運動方法について啓発を行った。また、矢上地区の3集落において地区活動の一環でラジオ体操の普及に取り組んだ。これをきっかけに継続して取り組み始めた方もおられる。	・今後もこれらの事業を継続しより多くの人に対して、啓発を行っていく。
・運動実践者を増やす	・より魅力的な教室になるよう教育委員会と連携する	・おおなん元気体操・ラジオ体操をする人を増やすため啓発を行った。また、楽しく運動してもらう人を増やすため、教育委員会と連携して老人クラブ総会で軽スポーツの紹介を行った。	・チャレンジ事業やウォーキングの日等を利用して、おおなん元気体操・ラジオ体操をする人を増やす	・健康チャレンジ事業を今年度は4回シリーズで行った。出席講座や地域運動教室等で配布し、ラジオ体操やウォーキング等介護予防に効果的な運動に取り組む方が増えるようにした。毎月のウォーキングの日では、公民館と連携しながら新たにウォーキングに取り組む人が増えるようにした。健康体操・トリガーのフォローアップ研修の場で教育委員会から軽スポーツを紹介してもらい地域運動教室等の場で高齢者に取り組んでもらうようにした。	・今後もこれらの事業をより多くの人へ周知し運動継続につながるよう、他機関と連携しながら進めていく。
・運動しやすい環境づくり	・教育委員会と連携し、軽スポーツの普及				
●地域におけるこころの健康の環境整備の推進					
・相談体制の整備	・民生委員地区会への参加	・民生委員地区会への参加は全地区へは行けず、情報提供も共通した内容で行えなかった。気軽に相談できる場として「こころの健康相談」を関係機関に周知したり、高齢者にかかわる機会が多い関係者に対して、「ゲートキーパー研修会」を行い地域で高齢者を見守る意識啓発を行った。	・関係機関と連携し継続した取り組みを行う ・「ゲートキーパー研修会」の充実	・民生委員地区会に担当保健師が参加した。参加頻度や内容は地区によって様々であるが、要望に応じて心の健康や地域づくりの情報提供を行った。高齢者に関する機会が多い福祉関係者を対象に心の健康づくりの研修会を行う予定にしている。	・今後も関係機関と連携して取り組んでいく。 ・要望に応じて民生委員会に参加したり、関係者対象に研修会を行い情報提供を行う。
●こころの健康づくりの取り組みの推進					
・こころの健康づくりの意識啓発	・老人クラブ・メディアへの意識啓発	・ささえあいミニデイを対象に出席講座を行った。今後も継続していきたい。関係機関へ相談窓口の周知は行った。また自分の生活に振り返ってもらうようクイズ形式にしたり工夫して意識啓発を行った。他課と連携して情報提供はできなかったんで今後行っていきたい。	・出席講座 ・「こころの健康づくりの講演会」の充実 ・目に留まる啓発を工夫していく	・心の健康相談等相談機関の周知を、医療機関や町内事業所へ周知し必要な方が相談につながるようにした。出席講座や心の健康づくり講演会は開催出来なかった。今後は出席講座等を利用してもらうよう働きかけていきたい。	・相談機関の周知やセルフケア等の啓発を継続する。
●喫煙者への禁煙支援					
・正しい知識の普及・啓発	・自治会を通じて周囲への影響についての啓発	・自治会を通じての啓発はできず、肺がんCT検査時の啓発のみに終わった。今後は啓発方法を検討して伝えていく必要がある。	・肺がんCT検査時の啓発の継続を実施するとともに啓発方法の検討	・たばこの害や禁煙外来の紹介に加えて、増加傾向にあるCOPDについての啓発も行った。また、より早期に情報提供をしたい思いもあり、事業所の協力も得て、肺がんCT検査の受診勧奨を行った。しかし、すぐに禁煙に結び付きにくい状況であった。	・肺がんCT検査時の啓発の継続。禁煙に関するPR方法の検討。
・禁煙外来の情報提供					
●自分の歯を守る取り組みの推進					
・正しい知識の普及		・運動教室(瑞穂地域)での健康ミニ講座や出席講座で、手入れ方法や噛むことの大切さ、肺炎予防などについて啓発を行った。	・継続実施	・認知症予防教室やミニデイ等で出席講座で口腔ケア(歯磨き・入れ歯の手入れ)やお口の体操の実技、お口の健康と身体の健康の関わりについて啓発を行った。	・出席講座を中心に実技指導や啓発を行っていく。
・定期歯科受診の推進	・介護予防に携わっているスタッフとの目線合わせの実施	・救護施設や障害者施設で出席講座を行い、利用者だけでなくスタッフの方にも啓発や実技の伝達を行った。	・継続実施	・出席講座の中で、利用者さんや施設職員の方へ啓発と実技指導を行った。	

	H26 計画	H26 実施状況	H27 方向性	H27 実施状況	H28 方向性
(3) 疾病の早期発見、合併症・重症化予防の推進					
●糖尿病、高血圧予防の効果的な保健事業の推進					
・早期発見・早期治療体制整備	・高血圧対策の検討	・特定健診時に減塩モニターで、血圧が高めな方の塩分量測定を行った。また、減塩チャレンジとして、減塩目標を設定し、減塩に心掛けながら血圧測定を行う取り組みを実施した。また、9月には、生活習慣病予防教室(高血圧)を行い、病態・食事・運動について学習の場を設けた。	糖尿病性腎症対策の検討	・特定健診時に微量尿中アルブミン検査を実施。併せて尿たんぱく検査・今年度より追加項目となったe-GFR値等を活用し、ハイリスク者のスクリーニングを行った。 ・島根県糖尿病予防・管理指針に基づき糖尿病性腎症病期分類の2期～4期の方・HbA1c7%以上かつ70歳未満の方に対し、地区担当保健師より個別介入を行った。 ・血圧高値の方を含めた重複リスク者を対象に9月に生活習慣病予防教室を実施。病態・食事・運動について学習の場を設けた。	・糖尿病性腎症対策の継続
・第2次特定健診等実施計画の推進	目標受診率 57% 目標実施率 72%	・H26年度法定報告では、特定健診受診率54.3%、特定保健指導実施率70.7%であり、目標値には到達していないが、県下ではトップクラスの率であり共に昨年度より上昇した。	中間見直し・評価 目標受診率 58% 目標実施率 73%	・集団健診において集落保健衛生委員の声掛けや、地区担当保健師による電話勧奨で受診者が増加した。	目標受診率 59% 目標実施率 74%
・魅力的な特定健康診査・保健指導体制づくり	・忙しい方のために、夕方のスピード健診を試行してみる ・特定保健指導対象者で教室の参加が難しい方には、地区担当保健師が個別フォローする	・各地域1会場ずつ夕方のスピード健診を計画したが、周知不足もあり希望者が少なかったため、石見地域で1日実施した。受診者は多くなかったが、夕方仕事帰りに受診でき、健診時間も短いため、負担が少ないと好評であった。 ・特定保健指導は集団教室・個別訪問のどちらかを選択できるような体制をつくったが、集団希望者が少なく個別フォローのみで支援することとなった。	・夕方のスピード健診周知、受診者数アップ ・個別に特定保健指導を行い、成果が上がる指導を心掛ける。	・夕方のスピード健診を瑞穂地域、石見地域各1会場ずつ実施。瑞穂地域については申し込みは少なかったが、受診勧奨により受診者増加につながった。石見地域では職域の方の利用が増え、受診者増加につながった。 ・初回面接、6か月評価を除く個別フォローでは実施率は良いものの、改善率向上の為の指導内容等情報提供が十分にできなかった。	・夕方のスピード健診周知、受診者数アップに向けた取り組みの継続 ・特定保健指導の改善率向上の為のスタッフへの情報提供、共有
・医療機関との連携強化	・生活習慣病予防対策検討会(糖尿病予防研修会)の開催	・12月に医療機関・保健課調整会議を開催。町から糖尿病対策の説明、国保KDBシステムから見える邑南町の健康課題について説明した後、同じ立場である邑智病院医師から、邑智病院における糖尿病対策について説明、糖尿病手帳の活用、眼科・歯科連携、医師からの特定健診受診勧奨、予備軍を予防教室へ勧奨すること、勉強会開催の提案等をしていただいた。	・生活習慣病予防対策検討会の継続。(糖尿病だけでなく、他の生活習慣病についても検討する)	・糖尿病およびCKD対策に対する連携強化や体制づくりをすすめるため、生活習慣病対策検討会(12月17日)を開催した。糖尿病連携手帳を活用した眼科歯科との連携、糖尿病予防・管理指針に基づいたCKD/ハイリスク者の医療機関フォローなど、今後の連携について依頼した。	・邑智病院実務者会、生活習慣病対策検討会の継続 ・糖尿病連携手帳の活用推進、ハイリスク者フォローのための保健・医療の連携強化 ・医療機関訪問の継続
	・邑智病院に受診している方のケース検討を随時行い、医療と保健が連携して生活習慣病予防に取り組む	・公立邑智病院実務者会議を行い、病院・行政の取り組みに関する情報交換と、糖尿病対策における連携について検討した。若手医師から隔岐での活動紹介があり、医療・保健が連携を図り取組む大切さを再確認した。	・邑智病院実務者会議を継続し、連携を強化する。	・公立邑智病院実務者会を行い、保健と医療の連携、病診連携にむけて情報交換し検討した。邑智病院医師から糖尿病連携手帳の活用や腎症ハイリスク者の医療機関フォローについて医療の現状を踏まえた意見をいただき、今後の連携を考えるための情報交換ができた。	
・健康相談、健康教室、訪問の充実	・教室は引き続き開催 ・自治会の集まりに出前講座(生活習慣病予防)	・糖尿病予防教室4回×2クール、生活習慣病予防教室(高血圧編・脂質異常編)を実施。また、今年度から2か月に1回の栄養相談日を設け、食事についての相談に随時対応した。	・自治会の集まりに出前講座。	・糖尿病予防教室4回×2クール、生活習慣病予防教室を実施した。 ・月1回栄養相談日を設け、希望者に対し病態の食事相談、指導を行った。 ・糖尿病合併症予防および糖尿病性腎症の重症化予防のため、ハイリスク者(HbA1c7%以上、腎症2～4期)に対し訪問等を行った。	・栄養相談日の継続 ・健康教室の継続 ・ハイリスク者訪問の継続
・継続した評価体制	・健康長寿おおなん推進会議で1年間の取り組み発表・評価。	・毎年、年度末に1年間の振り返りを行い、その反省をもとに次年度計画を立案している。H26年度は、データヘルス計画を策定。PDCAサイクルに基づき、効果的な事業展開を図った行く予定。	・データヘルス計画について、1年ごとに評価を行い、PDCAサイクルを回してしていく。	・生活習慣病重症化予防については、データヘルス計画の中に優先順位をつけて載せている。 ・年度末に向け、データヘルス計画の評価を行い、来年度の方向性を検討する。3月実施の国保連合会評価委員会の場で、専門家からの意見をいただき、効果的・効率的は取り組みに結びつける。	・データヘルス計画について、1年ごとに評価を行い、PDCAサイクルを回してしていく。
●がん対策の推進					
・がん予防と早期発見の推進	・職域部会での胸部CT検診の検討	従来、特定健診、肺がん検診における喫煙者に加え、健康フェア打ち合わせ会に参画いただいた事業所において、職場の喫煙者を対象に受診者を募って、検診を実施した。禁煙について情報提供を行っており、毎年数名の方がこの検診をきっかけに禁煙につながっている。	今後のがん検診の実施体制について検討する。 肝炎対策の強化。	・がん検診の実施体制についての検討はできなかった。今年度がん検診のあり方に関して国で検討がなされていることや、平成29年のがん対策推進計画の中間評価を実施する予定にしているため、それにあわせてがん検診の実施体制について検討する。 ・肝炎検査については特定健診にあわせて実施。40・45歳で今までに検査を受けておられない方に対して個別通知を行った。	・今後のがん検診の実施体制について検討する。
・がん対策推進計画の推進	・職域部会の開催	今年度、健康フェアの打ち合わせ会として協力いただいた事業所等と、今後職域部会開催に向け検討を重ねていきたい。 健康フェアの企画、参加勧奨、胸部CT検診の取りまとめ等を協力して実施した。	職域部会の本格的実施。	・健康フェア実行委員会を母体に職域部会の立ち上げに向けて進めていきたかったが、委員さんの代わられた年でもあり、各事業所の健康管理の取り組みについて情報交換を中心に行った。がん検診の日程や胸部CT検査についてなど情報提供や取りまとめの協力をいただいた。	・継続して動き盛り部会の委員さんと連携していく。
・継続した評価体制		集団検診における精度管理(精密検査の結果把握等)について、県央保健所の協力もいただきながら委託検査機関と協議した。	個別検診の精度管理について検討する。	・県央保健所の協力もいただきながら個別検診の精度管理について県央保健所管内で確認があったが、委託医療機関との協議まではできなかった。	・継続して個別検診の精度管理について検討していく。